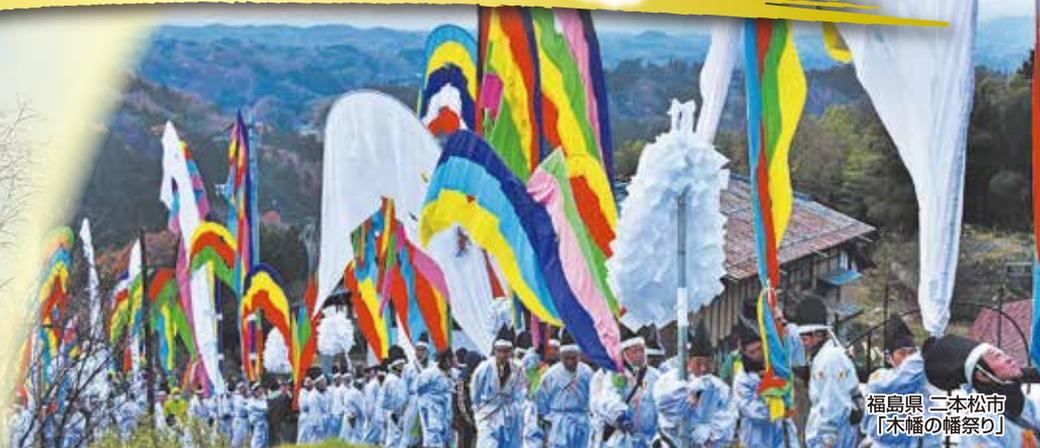


冬号

伝統芸能

日本の祭り



福島県二本松市
「木幡の幡祭り」



愛知県豊橋市
「豊橋鬼祭」



宮崎県椎葉村
「椎葉神楽」

はるか昔から、その土地に根付く歴史や伝統、文化や想いを形にした「日本の祭り」。
日本古来より伝承された芸術と技能を感じに行こう。

さあ、出かけよう！
伝統と心を繋ぐ祭りへ

この冊子の内容は右記のホームページからご覧になれます。地域伝統芸能活用センター <http://www.dentogeino.or.jp>

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



日本の魂をつなぐ、祭りと伝統芸能 歴史と伝統の継承。

地域伝統芸能賞受賞祭事を中心に選出しています

実施日 毎年11月開催
今年は11月12日(土)



沖縄県 伊江村
伊江島の村踊

実施日 毎年12月第1日曜日
今年は12月4日(日)



福島県 二本松市
木幡の幡祭り

2 11・12月 しいばかぐら 椎葉神楽 P3

実施日 毎年1月11日～16日
平成29年は1月11日(水)～16日(月)



宮城県 東松島市
月浜のえんずのわり

5 1月 利賀の初午 P4

7 1月 五十猛のグロ P5



実施日 毎年11月下旬～12月下旬
今年は11月下旬～12月下旬(詳細はお問合せください)



宮崎県 椎葉村
椎葉神楽

10 2月 豊橋鬼祭 P6

6 1月 篠原踊 P4

1 11月 伊江島の村踊り P3

実施日 毎年1月25日
平成29年は1月25日(水)



奈良県 五條市
篠原踊

3 12月 木幡の幡祭り P3

4 1月 月浜のえんずのわり P4

8 2月 上州白久保のお茶講 P5

9 2月 徳丸北野神社田遊び・赤塚諏訪神社田遊び P5

目次

- 日本各地の祭り・伝統芸能分布図 P1・P2
- ① 伊江島の村踊り P3
- ② 椎葉神楽 P3
- ③ 木幡の幡祭り P3
- ④ 月浜のえんずのわり P4
- ⑤ 利賀の初午 P4
- ⑥ 篠原踊 P4
- ⑦ 五十猛のグロ P5
- ⑧ 上州白久保のお茶講 P5
- ⑨ 徳丸北野神社田遊び・赤塚諏訪神社田遊び P5
- ⑩ 豊橋鬼祭 P6
- 地域伝統芸能活用センターよりお知らせ P6

い え じま むら おどり

沖縄県 伊江村

伊江島の村踊

沖縄県

★伊江村

実施日

毎年11月開催
今年11月12日(土)



アクセス 船：沖縄本島北部の本部港より伊江島フェリー約30分

伊江村教育委員会
<http://www.iejima.org/>

島内各集落の人々が伝承する島独特の踊り

「伊江島の村踊」は二才踊り(にせうどうい)と言われる青年踊りで、沖縄の他の地域に類を見ない独特な芸能です。平成10年12月16日に国の重要無形民俗文化財に指定されています。

①島で創作された踊り②沖縄本島や他の地域から伝わってきた踊り③本土の影響を受けた踊り(ヤマト系芸能)の三種類の踊り方に分類することができ、特にヤマト系芸能は本村の独特な芸能であり、重要無形民俗文化財となる大きな要因となっています。伊江島と本土の芸能との関係については伊江島総地頭代がヤマト旅を仰せつかったことが大いに関与したのではないかとされています。1675年から1876年までの約200年間に伊江御殿から9回、川平殿内から4回、計13回ヤマト旅に外向き、これまでの薩摩や江戸へのヤマト上りの際に、島の優秀な若者で組踊「忠臣蔵」の作者上地太郎氏らがお供をしており、旅の道中、見聞した様々なヤマト歌や踊りを吸収し、島に持ち帰り三線音曲にのせ、独自に振り付け、構成したものと考えられています。島では、昭和48年に伊江村民俗芸能保存会を設立し、昭和55年から、各区輪番制による伊江村民俗芸能発表会を開催しています。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

しい ば かぐら

宮崎県 椎葉村

椎葉神楽

宮崎県

★椎葉村

実施日

毎年11月下旬～12月下旬
今年11月下旬～12月下旬(詳細はお問合せください)

こ はた はた まつ

福島県 二本松市

木幡の幡祭り

福島県

★二本松市

実施日

毎年12月第1日曜日
今年12月4日(日)

各地区の多種多様な舞いや衣装を伝承する神楽

椎葉神楽は、村内26ヶ所の集落で11月中旬から12月下旬にかけて神楽宿(民家・神社拝殿・公民館など)に舞所となる御神屋(神楽を舞う場所)を設け、正面に高天原(神霊を迎える場所)を立て、周囲には注連やえりものなどの飾り付けをして舞われます。

椎葉の村民にとって一年を締めくくる祭りであり、地元では「冬祭り」「年祭り」とも呼んでいます。神楽の特徴は、猪・鹿の奉納があったり、粟・大豆・小豆などの雑穀を用いるといった山岳地帯の狩猟、焼畑文化の要素を色濃く伝えており、山の生活を表しています。26地区の神楽一つ一つが優れた内容を持ち、しかも地域的な特色が顕著であり、昔のままの態様を残していることから平成3年2月21日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



アクセス バス：宮崎県日向市駅よりバス約150分
車：熊本空港より車約110分

椎葉村観光協会
<http://www.shiibakanko.jp>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

950年以上の伝統を誇る、壮観な旗祭り

木幡の幡祭りは、天喜3年(1055年)前九年の役に由来するものといわれています。戦いに敗れた源氏の軍勢がわずかに数騎で木幡山に立て籠もったところ、一夜にして降り積もった雪で全山が白くなった様を追走してきた安倍の軍勢が、源氏の白旗に見間違え戦わずして敗走した故事により現在「幡祭り」として伝承されています。

現代では、白幡を先達に色とりどりの幡が行列し「日本三大旗祭り」の一つとも言われています。また、古より伝わる儀礼を色濃く残していることから、平成16年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。



アクセス 電車：JR東北本線「二本松駅」よりタクシー約20分
車：東北自動車道「二本松IC」より車約25分

二本松市ホームページ
<http://www.city.nihonmatsu.lg.jp/site/kankou/538.html>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

宮城県
東松島市

つき はま
月浜のえんずのわり

実施日
毎年1月11日～16日
平成29年は1月11日(水)～16日(月)




子供たちを中心に伝承されてきた、小正月の鳥追い行事

宮城県の北東にある宮戸島の月浜という集落に伝承されている小正月の鳥追い行事で、平成18年3月、重要無形民俗文化財に指定されています。集落の子どもたちが1月11日から岩屋にこもって共同生活を行い(～1月16日朝)、14日夜に松の棒を持って集団で集落内の家々をまわり、縁側や玄関先で松の棒を地面に突きながら害鳥を追いはらう唱え言と、1年間の無病息災・豊漁豊作を祈願する言葉を言います。16日早朝には集落にある五十鈴神社の境内で、ヤヘイガミをつけた竹を持って鳥を追いはらう動作をします。この日は同時に家々でも鳥追いが行われています。

この地域は平成23年3月11日に発生した東日本大震災に見舞われ、集落が壊滅しましたが、幸いにして住民は全員避難し助かりました。現在、復旧・復興事業が進み、もとあった集落の背後地を造成し移り住み、行事も休止することなく継続しています。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

アクセス
電 車：JR仙石線「野蒜駅」よりタクシー約15分
車：三陸縦貫自動車道「鳴瀬奥松島IC」より車約20分

えんずのわり保存会
お問合せ先 E-mail:kaminoie@rose.ocn.ne.jp

富山県
利賀村

ど が はつ うま
利賀の初午

実施日
毎年1月15日頃
平成29年は1月9日(月・祝)




五穀豊穡と家内安全を祈る子どものみで行われる行事

初午は、文化年間(約二百年前)の頃から利賀地区に伝わってきた子供たちだけで行う珍しい行事です。当時、利賀村は農業の他に養蚕が盛んで、この初午行事は、養蚕事業の繁栄を祈り、その年の豊作と家内安全を祈願するものです。子どもたちは、神主、午方(うまかた)、俵転がし、太鼓打ち、馬もち、太鼓たたき、歌うたいの役などの装いをし、ワラで仕立てた午の頭をもって、時に3メートルにもなる深い雪を踏み分けて地区内の家々をまわります。

神主が家の大黒柱の前で祝詞(のりと)を奉し、続いて2人の子供がかぶった午が「乗りこんだ 乗りこんだ お馬が乗りこんだ…」と初午の唄と太鼓に合わせて舞います。最後に俵転がしが「豊年の福俵でござーい」と歌いながら、ちよびりこっけいに俵を重そうに転がし、各戸に福の神を運びます。

初午行事は、国の無形民俗文化財に選択され、県の無形民俗文化財にも指定されています

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

アクセス
バ ス：JR高山本線「八尾駅」より利賀村営バス約60分
タクシー：JR高山本線「八尾駅」より約40分
車：北陸自動車道「砺波IC」より車約60分

南砺市商工会 利賀村事務所
<http://www.shokoren-toyama.or.jp/~toga/>

奈良県
五條市

しの はら おどり
篠原踊

実施日
毎年1月25日
平成29年は1月25日(水)




古来より踊り継がれる、県指定無形民俗文化財

舟ノ川流域では、古くより「舟ノ川郷」と呼ばれる木地師の集落として、独自の文化や芸能を長く留めてきました。その舟ノ川郷で最も古くに拓かれたとされるのが「篠原踊」と呼ばれる踊りで、毎年1月25日の神事初めに天神社へ奉納されています。篠原踊は、「むかし狼などの猛獣が出没して村人に害を与えたために、氏神様に狼退治の成就を願う踊りを奉納したところ、願い叶って村の平和を取り戻せたことに由来する」と伝えられています。男性は太鼓を打ちながら歌い踊り、女性はそれに合わせて扇を手には舞い踊る古式豊かな舞踊で、26曲が今にまで伝えられているそうですが、近年は「梅の古木踊」「宝踊」「世の中踊」の3曲のみを式三番として奉納しています。

アクセス
電 車：JR和歌山線「五条駅」より
奈良交通バス十津川温泉行き「宇井」下車、村営バス「篠原」より徒歩約5分
大阪線「近鉄八木駅」より奈良交通バス十津川経由新宮行き
または湯の峰・川湯温泉行き「宇井」下車、村営バス「篠原」より徒歩約5分

五條市ホームページ
<http://www.city.gojo.lg.jp/www/contents/1168491592668/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

いそたけ
五十猛のグロ

島根県
大田市

毎年 1月11日～15日
平成29年は1月11日(水)～15日(日)

実施日



地域的特色豊かな豊漁祈願の祭り

年頭に20メートルほどの竹の柱を中心とする大型で独特のグロと呼ばれる仮屋を設けて歳徳神(としとくじん)を迎え、一年の豊漁などを祈願します。昔、神様方がこの地域をとおりかかれたときに、住んでいる住居が貧弱で、しかも日陰の湿気の多い穴居での生活であったため、病気が流行り、漁も無く生活に苦しんでいるのを見られて、木や竹や草をつかって、陽の当たる丘の上に家を作ることを教えられました。そのため、人々は健康を取り戻し漁も多くなり生活も楽になりました。これに感謝して、正月に歳徳神を祭る行事に併せてグロの行事が始まったと伝えられております。現在も、大田市五十猛町大浦に伝承される小正月の行事で、竹を主な材料としてグロと呼ばれる直径10メートルほどの円錐形の仮屋を浜辺に作り歳徳神を迎えて一年の豊漁や無病息災を祈願します。仮屋は15日の早朝に解体され、各家が持ち寄った正月飾りとともに焼かれます。この行事は、西日本地域の中で特色ある小正月の行事として注目され、また、グロと呼ばれる仮屋の形態も独特で地域的特色も豊かであり、我が国の年中行事や民間信仰の変遷を考える上で重要であるとされています。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：JR山陰本線「五十猛駅」よりタクシー約10分
※五十猛駅にタクシーは常駐していません。
大浦タクシー 0854-87-0511 へお電話下さい。
JR山陰本線「大田市駅」よりタクシー約20分
※タクシーは常駐しています。

大田市観光サイト
<http://www.ginzan-wm.jp/spot/1974>

じょうじゅうしろくぼ ちゃこう
上州白久保のお茶講

群馬県
中之条町

毎年2月24日
平成29年は2月24日(金)

実施日



闘茶(茶勝負)の形式を残す、全国的にも珍しい行事

お茶講は、渋茶(煎茶)・甘茶・チンピ(みかんの皮を干したものを)を煎り粉にして四種類の混合茶を作り、それを飲み当てるものです。14世紀の中頃に行われた「闘茶」(茶会的一种で「茶勝負」ともい、茶の香りや味を当てるゲーム)と深い関わりがあるといわれており、伝承は全国でも大変珍しいものです。寛政11年(1799年)の「御茶香覚帳」の記録と現在の記録方法が同じことから、古くから行われていたことがわかります。平成2年(1990年)に、国の重要無形民俗文化財に指定されました。



アクセス

電車：JR吾妻線「中之条駅」よりタクシー約15分
車：関越自動車道「渋川伊香保IC」より車約60分

中之条町観光協会
<http://www.nakanojo-kanko.jp/saijiki/shirokubo.shtml>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

とくまるきたのじんじゃたあそ
徳丸北野神社田遊び
あかつかすわじんじゃたあそ
赤塚諏訪神社田遊び

東京都
板橋区

毎年 徳丸北野神社田遊び:2月11日、赤塚諏訪神社田遊び:2月13日
平成29年は 徳丸北野神社田遊び:2月11日(土・祝)
赤塚諏訪神社田遊び:2月13日(月)

実施日



旧正月に行われる、豊作と子孫繁栄を祈願する行事

田遊びは、水田耕作に関わる神事であり、年頭にあってその年の五穀豊穡ごこくほうじょうと子孫繁栄を祈念する「予祝」の意味を持ち、一年間の稲作の作業を、唱え言葉と所作によって表現し、田の神霊をなぐさめ、奮い立たせるという意があるとされます。徳丸北野神社の田遊びは、長徳元年(995年)に京都北野天満宮より分霊を受け、それを勧請して徳丸の地に天満宮を建てた時に始まるといわれます。この行事は毎年2月11日の夜、境内に二間四方の「モガリ」(祭庭)がつくられ、四隅に青竹を立て注連縄を張り巡らせ、中央に太鼓を据へこれを田んぼに見立て、一年間の稲作りの作業の有様を面白おかしく演出します。板橋区大門に伝承する赤塚諏訪神社の田遊びは、境内にて毎年2月13日の夜に神社境内で執り行われています。また国内において、ほぼ完全な形で伝承されている例は希少であることから「徳丸北野神社田遊び」とともに、昭和51年に「板橋の田遊び」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。



アクセス

徳丸北野神社田遊び…
電車：東武東上線「東武練馬駅」下車、徳丸循環バス「北野神社」より徒歩約1分
東武東上線「成増駅」下車、赤羽行きバス「紅梅小学校」より徒歩約5分
赤塚諏訪神社田遊び…
電車：三田線「高島平駅」下車、成増駅行きバス「大門竹の子公園」より徒歩約2分

板橋区ホームページ
http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/003/003809.html

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

愛知県
豊橋市

とよ はし おに まつり
豊橋鬼祭



実施日

毎年2月10日・11日
平成29年は2月10日(金)・11日(土)

約1000年前から行われている厄除けの祭

東三河(愛知県東部)に春の訪れを告げる祭礼として、毎年2月10日・11日にわたって行われます。平安から鎌倉時代に流行した田楽に日本建国の神話を取り入れて神事としたもので、古式を崩さずに伝えられていることから国の重要無形民俗文化財として指定されています。

祭礼は二日間にわたり、氏子14町会によって神楽・田楽・歩射(ぶしゃ)・卜占(ぼくせん)・御神幸など様々な行事が行われますが、ことに知られるのが11日に行われる「天狗と赤鬼のからかい」です。これは荒ぶる神である赤鬼と武神天狗が双方秘術を尽くして闘い、やがて敗れた赤鬼が償いにタンキリ飴と白い粉(小麦粉)をまきながら境外へ飛び去ります。この粉を浴び、飴を食べると厄除となり夏病みせぬと古来より言い伝えられています。

アクセス

電 車：JR・名古屋鉄道「豊橋駅」より
豊橋鉄道市内線(路面電車)に乗り、
「市役所前」または「豊橋公園前」電停より徒歩約3分

安久美神戸神社

<http://onimatsuri.jimdo.com>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



地域伝統芸能活用センターよりお知らせ

地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会ながはま」



**日本の祭り
ながはまはま 2016**

「秀吉出世のまち」長浜から
日本を元気UP

題字：菊池錦子

平成28年 **入場無料**

10月29日(土)~30日(日)

メイン
会場

- さざなみ会場 (長浜文化芸術会館)
※10月29日(土)の観覧募集は満員にて終了致しました。まちなか会場にお越しください。
- まちなか会場 (長浜中心市街地)

サテライト
会場

- 北国街道きのもと宿会場 (木ノ本駅周辺)
- 浅井会場 (浅井文化ホール)

※サテライト会場は10月30日(日)のみの公演です。





宝くじは、 みなさまの 豊かな暮らしに 役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、みなさまの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。



一般財団法人

日本宝くじ協会

ホームページ

<http://jla-takarakuji.or.jp/>

